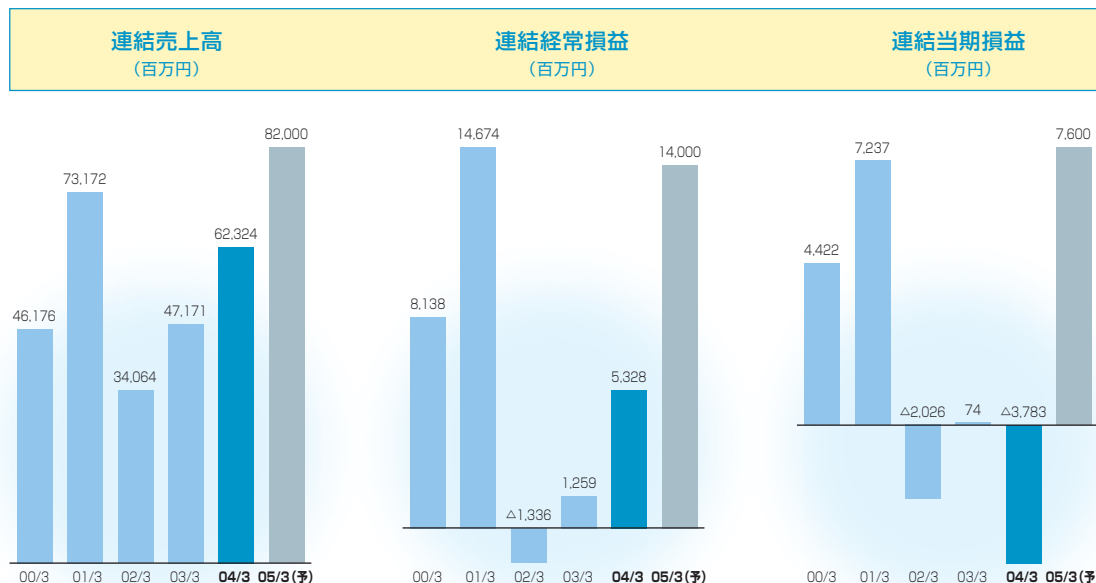




第81期 事業報告書

株式会社東京精密

財務ハイライト



単位:百万円

	2000/3	2001/3	2002/3	2003/3	2004/3
連結売上高	46,176	73,172	34,064	47,171	62,324
連結経常損益	8,138	14,674	△1,336	1,259	5,328
連結当期損益	4,422	7,237	△2,026	74	△3,783
連結総資産	61,007	91,477	79,865	88,669	94,893
連結純資産	33,433	38,779	35,423	33,645	29,183
発行済株式総数(千株)	37,542	37,465	37,370	37,355	37,354
1株当たり連結当期損益(円)	118.43	192.95	△54.21	1.64	△101.67

※ 1株当たり連結当期損益は、期中の平均株式数により算出しています。

※ 発行済株式総数は、自社株式を除いた数字です。

見通しに関する注意事項

この事業報告書に掲載されている東京精密の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実ではない事柄は、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。リスクや不確実性には、世界経済の動向、当社の事業領域の市況、為替変動、急速な技術革新による競争の激化などがあります。このような事象により、実際の業績はこれら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

株主の皆様へ

東京精密の株式を保有していただき、有難う存じます。厚く御礼申し上げます。

さて、当社は、株主の皆様が当社株式を保有していただいた目的に沿った経営を目指しております。

経営指標といたしましては、一株当たりの純利益 (EPS) を長期的に増大させていく事を重視しております。これは当社が非常に重要と考えている「WIN-WIN」の関係を株主の皆様と会社との間で作り上げる事につながると確信しております。

当社は、技術指向型の会社です。上記の目的のために当社の経営の大原則である「製品開発の原則」(3頁参照)に沿って技術開発を継続的に行っています。

また当社は、「世界No.1の製品を創る」という目的を共有できる企業および人材と積極的にパートナーシップを結び、ナノテクノロジーレベルの画期的な製品開発を実現しています。協業を成功させるために、「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」というモットーのもと、異文化を包摂したグローバルかつハイブリッドな東京精密の文化風土を醸成し、世界No.1の商品開発体制の構築に努めております。

さらに、2001年1月には「ACCRETECH(アクレーテック)」というコーポレートブランドを導入しました。「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」という当社の企業理念を表したものです。

株主の皆様にも是非当社の企業理念にご賛同賜り、このコーポレートブランド「ACCRETECH」のもと、更なる飛躍を目指す当社に、今後とも格別なるご理解とご支援をお願い申し上げます。



大坪英夫

代表取締役会長C.E.O.

FAQ... よくいただくご質問

Question-1

半導体関連産業の景気が回復してきていると聞きました。今どのような状況なのか教えてください。

半導体業界は、2003年度後半から本格的に回復してきました。電子技術情報産業協会(JEITA)は5月17日、半導体需要は2004年に前年比14.5%増加し、2005年に過去最高の2000年の水準に並びであろうと発表しました。この好調な半導体市況は、携帯電話やパソコンが牽引した2000年ピーク時に似ているといわれますが、今回はテレビなどのデジタル家電や自動車関連なども含んだ、幅広い分野にわたって需要が立ち上がってきています。この状況を受けて、半導体各メーカーも生産・販売を伸ばし、設備投資を積極的に行っています。

当社も2003年10月から受注が急激に増加し、第3四半期の受注額は前年同期比約2倍、第4四半期の受注額は第3四半期に対しさらに約10%増と非常に高いレベルで推移しました。その結果、半導体製造装置部門の下期の受注額は、過去最高であった2000年度上期を約5%上回り、348億13百万円となりました。2004年度に入りましても受注は引き続き好調に推移しています。

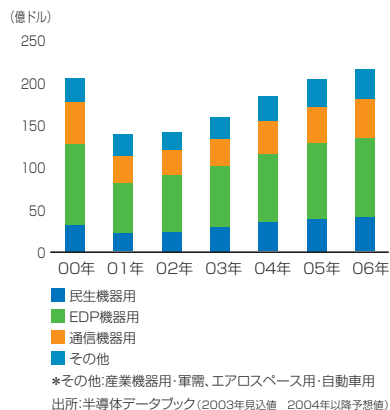
Question-2

御社が手掛けられている新規事業について教えてください。それらの成果はどのように表れてきていますか。

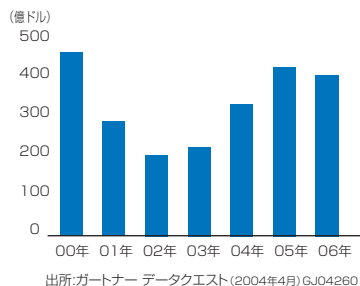
当社は、常にビジネス環境を考慮して、新しい成長市場に経営資源を集中し、業容拡大に努めています。この方針にもとづき、当社は、成長性の高い半導体製造装置において、新しい分野の製品開発に着手し、2000年度にウェーハ外観検査装置、ポリッシュ・グラインダを、2002年度にCMPを市場投入しました。さらに、微細化が進む半導体製造技術に不可欠な次世代のリソグラフィ装置分野にも「LEEPL」という新しい技術で市場参入しました。

これらの新規参入製品群は、着実に売上を伸ばし、2004年度では、半導体製造装置全売上高の約30%を予想しています。2004年度の半導体製造装置市場は活況を呈しているものの、過去最高である2000年度には及ばないと予想されています。その中において、当社の2004年度の売上高は、新規参入製品群の売上伸長により、過去最高であった2000年度を大幅に上回ると予想しています。利益面でも、毎年貢献度が高まっており、近い将来、既存製品群以上の利益率を確保できると考えています。

世界の半導体用途別市場動向



世界半導体製造装置
設備投資マーケットサイズ



製品開発の原則

1. 世界No. 1の製品を創る。
マーケットシェアNo. 1の商品は
(1)好況時の利益の極大化がはかれる。
(2)不況時の損失の極小化がはかれる。
2. 研究開発投資は自己資金で。
3. 開発は技術参入障壁が高く、マーケットが大きくニーズも高い分野を狙う。
4. 相応しいパートナーを見つけ、開発コストをシェアするとともに開発の成果を共有する。

モットー(行動指針)

「WIN-WINの仕事で世界No. 1の商品を創ろう」

- 「製品開発の原則」の遵守
- 前工程へは親切なアドバイス
- 後工程へは迷惑をかけない
- 協力会社、代理店との共存共栄、パートナーシップ
- 技術およびサービスの完全サポート体制
- トータルな品質管理(TQC)による品質向上
- ユーザーとのパートナーシップの確立によりよりユーザーフレンドリーな商品開発
- 環境との調和による地球にやさしい仕事をめざす
- 競合他社を含むグローバルな提携関係の構築によるユーザーへのトータルソリューションの提案
- ACCRETECH発デファクトスタンダードの確立

各国、各社の持つ異文化を融合したグローバル且つハイブリッドな東京精密の文化風土を醸成しその中で世界No. 1の商品開発体制を構築する。

コーポレートブランドACCRETECH(アクレーテク)

Grow Togetherという意味のACCRETEとTECHNOLOGYの合成語で、「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No. 1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」という当社の企業理念を一語で表したものです。

Question-3

御社の事業戦略について教えてください。

当社は、経営の大原則として「製品開発の原則」という強い製品開発体制と適正な製品開発基準をもち、市場の設備投資動向の影響を最小限に抑えつつ、高成長・高収益のビジネス基盤を構築し、さらなる企業価値向上に努めています。この「製品開発の原則」を遵守させるために、全社員の行動指針としてモットーを制定しています。世界No. 1の製品開発には、各分野における最先端の技術とスピードが要求されるため、当社の培ってきたコア・テクノロジーを応用することに加え、国内外の垣根を越えて、世界No. 1の製品創りという共通目的をもつ会社や個人と“WIN-WIN”の協力関係を築くことが不可欠です。各国、各社のもつ異文化を融合したグローバルかつハイブリッドな社風を醸成することにより、世界No. 1の製品開発体制を構築し、真のグローバル・カンパニーを目指します。

このような当社の在り方・企業理念を一語で表したものが、当社のコーポレートブランド「ACCRETECH(アクレーテク)」です。今後、ACCRETECHの製品といえばNo. 1というイメージとともに、ACCRETECHブランドを広く浸透させていきたいと考えています。

Question-4

株主への利益還元をどのように考えていますか？

当社は、株主の皆様が当社株式を所有する目的に沿った経営を行っており、短期的な市況や業績の変動に惑うことなく、常に長期的拡大を視野に入れた戦略を重視しています。特に、成長分野において、最先端技術を駆使した世界No. 1商品为社会に提供することにより、企業価値を高め、株主の皆様への利益還元を最大化するよう努力しています。その際に企業経営上、一株当たり純利益の長期的な上昇と、その結果としての企業価値の長期的な上昇を、重要な指標と考えています。

当社は、半導体産業には市況の急進・急落があり、短期の業績を配当に反映するのは、長期的視点で保有していただいている株主の皆様との視点と合致しないと考えています。したがって当社は配当に関して、企業価値を高めるための事業展開や企業体質強化にも配慮の上、安定的な配当を実施していくことを方針としています。

業績に関するご質問

Question-1

2003年度の御社の業績を教えてください。

半導体製造装置部門は、半導体業界の本格的な回復を背景とした国内外の半導体メーカーの積極的な設備投資動向を的確に捉え、ニーズに応えるきめ細かい営業を展開しました。その結果、売上高は470億45百万円（前期比40.2%増）となり、利益面でも強力なコストダウン施策が効を奏し、27億72百万円の営業黒字を計上し、前期比大幅に改善しました。さらに、2004年3月末の受注残高は148億21百万円となり、期末受注残高として既往ピークを更新しました。

既存製品群の主力であるウェーハプロービングマシンは、高精度が要求される最先端デバイス用装置の更新需要と300mm対応の新規需要が急増し、マーケットシェアNo. 1を確固たるものとししました。ウェーハダイシングマシンも、新規顧客増加によりマーケットシェアが拡大した結果、当期の受注高及び3月末受注残高は2000年度の過去最高を上回りました。

新規参入製品群のウェーハ外観検査装置は、既存ユーザーのリピートオーダーと新規ユーザーの獲得により、マーケットシェアを着実に伸ばしています。また、他に追従を許さない独自製品であるポリッシュ・グラインダは、ウェーハ薄片化市場でのデファクトスタンダードを確立し、売上が大幅に伸長しました。CMP装置は、コンセプトや構造の優位性がお客様に浸透し、2003年度の売上高は前期比でしたが、受注高は倍増し、2004年度の大幅売上増に期待が持てます。

計測機器部門も、日本経済の景気回復が進むなか、国内市況が自動車関連産業をはじめとして順調に回復し、国内を中心に売上を伸ばした結果、2003年度の売上高は前期比12.3%増の152億79百万円となりました。生産面でもコストダウンに注力し、営業利益も前期比10.1%増の31億74百万円を計上し、前期比増収・増益を達成しました。

汎用計測機器の中では、2003年4月に市場投入したカールツァイス社と当社の技術を融合した「ザイザックスSVA」シリーズが、お客様から高い評価を受け、販売が大きく伸びました。自動計測機器の中では、自動車の部品生産ライン等で使用される「パルコムシリーズ」などが好調であり、さらに、新製品の「ATC振れ測定システム」も多くのユーザーに標準採用されました。

以上の結果、2003年度の連結売上高は前期比32.1%増の623億24百万円、連結経常利益は53億28百万円となりました。また、当社の連結当期損益は、特別損失97億72百万円を計上したため、37億83百万円の損失になりました。

VLSIリサーチ社の半導体製造装置の顧客満足度調査(世界規模)で「10BEST」賞を2部門で連続受賞(2004年6月発表)



ウェーハプロービングマシン：
テスト&ハンドラー部門で、9年連続の受賞。
2004年は第2位。
ウェーハダイシングマシン：
アッセンブリー部門で、2003年に続き、
2004年も第1位受賞。

ポリッシュ・グラインダ
[PG300RM]



ポリッシュ・グラインダ(PG)は、ICカードなどで要求される薄片化ニーズに応えるため、ウェーハの裏面を研削すると同時に、ダメージ層を除去し、薄くて剛性の高いウェーハを作ります。
[PG300RM]は、現在PGシリーズの主流モデルで、ウェーハの薄片化とダメージ除去に加え、表面テープの剥離からダイシングフレームへの取り付けまでの4つの機能を1台で可能にします。

CMP装置
[A-FP-310A]



CMPは、ウェーハ表面の凹凸面を平坦化する装置です。半導体デバイスの多層化や、配線材料の多様化に伴い、その用途は拡大しています。[A-FP-310A]は、優れた均一性と低圧研磨の安定性を両立させたエアフロート式ヘッドを採用しています。

三次元座標測定機
[ザイザックスSVA fusion]



三次元座標測定機は、サブミクロンから5ミクロン程度までの精度で三次元の寸法を測定します。「ザイザックスSVA fusion」は、東京精密の高剛性技術を生かしたハードウェアに、カールツァイスのセンシング技術による高精度アクティブキャニング方式プローブを搭載した、本格的な三次元座標測定機です。測定・検査時間の大幅な短縮を可能にします。

Question-2

2003年度の決算において特別損失を計上しましたが、この理由を教えてください。

当社は今後の収益基盤を一層拡充するために、2003年度にCMP事業の再構築とリープル事業の収益体質強化を実施し、両事業の開発関連の投資及び費用など97億円を特別損失に計上しました。

内訳は、販売用ソフトウェア廃却損34億円やたな卸資産評価損および廃却損34億円、固定資産除却損22億円などです。これらの特別損失を計上することにより、両事業の黒字化の時期が早まります。

Question-3

御社の2004年度の業績や財務状態、キャッシュ・フローはどのように見込まれていますか？

【業績】

2004年度の半導体市場は、引続き堅調な伸びが予想され、半導体メーカーの設備投資も、300mmウェーハ関連投資の本格化などにより、拡大が期待されます。

このような状況下、2004年度の半導体製造装置部門の売上高は、既存製品および新規参入製品のいずれも好調に推移すると考え、過去最高であった2000年度の585億円を更新する664億円を予想しています。

計測機器市場も、国内における全般景気の回復に伴い、自動車関連をはじめ工作機械、ベアリングなどの各ユーザーから堅調な需要が見込まれ、海外もアジア地域を中心に需要の増加が期待されています。お客様のニーズを的確に把握し受注に繋げるとともに、昨年より発売した高機能の新製品群も積極的に拡販し、計測機器部門の2004年度売上高は、156億円を予定しています。

以上のような予測の下、2004年度の連結売上高は過去最高を上回る820億円、連結経常利益140億円、連結当期純利益76億円を予想しています。

【財務状態、キャッシュ・フロー】

2004年度は、売上・利益の拡大により、資産回転率のアップと営業キャッシュ・フローの大幅な好転が見込まれ、株主資本比率の上昇など、より良い財務状況を構築できる見込みです。

連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	単位:千円	
	第80期 (03.03.31)	第81期 (04.03.31)
流動資産	59,062,460	70,944,939
固定資産	29,606,999	23,948,312
有形固定資産	15,578,734	12,847,694
無形固定資産	7,580,586	3,756,991
投資その他の資産	6,447,677	7,343,626
繰延資産	93	61
資産合計	88,669,553	94,893,313

科目	単位:千円	
	第80期 (03.03.31)	第81期 (04.03.31)
流動負債	38,964,175	33,285,651
固定負債	14,162,308	30,301,641
負債合計	53,126,483	63,587,293
少数株主持分	1,897,998	2,122,589
資本		
資本金	7,199,991	7,199,991
資本剰余金	11,806,740	11,806,740
利益剰余金	15,191,079	10,273,770
その他有価証券評価差額金	△ 617,708	57,783
為替換算調整勘定	111,291	△ 105,115
自己株式	△ 46,323	△ 49,739
資本合計	33,645,071	29,183,430
負債・少数株主持分及び資本合計	88,669,553	94,893,313

連結損益計算書

科目	単位:千円	
	第80期 (02.04.01~03.03.31)	第81期 (03.04.01~04.03.31)
売上高	47,171,970	62,324,553
売上原価	35,828,934	46,531,034
売上総利益	11,343,036	15,793,518
販売費及び一般管理費	9,482,651	9,846,076
営業利益	1,860,384	5,947,442
営業外収益	297,136	146,018
営業外費用	897,793	765,449
経常利益	1,259,727	5,328,010
特別利益	123,116	380,524
特別損失	1,307,767	9,772,688
税金等調整前当期純利益(△純損失)	75,076	△ 4,064,152
法人税、住民税及び事業税	694,496	1,044,773
法人税等調整額	△ 908,973	△ 1,598,219
少数株主利益	215,523	273,099
連結当期純利益(△純損失)	74,029	△ 3,783,806

連結剰余金計算書

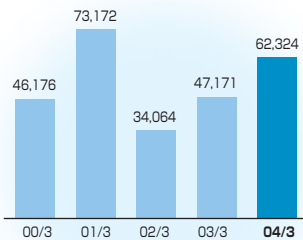
科目	単位:千円	
	第80期 (02.04.01~03.03.31)	第81期 (03.04.01~04.03.31)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	11,806,740	11,806,740
資本剰余金増加高	—	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	11,806,740	11,806,740
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	16,463,548	15,191,079
利益剰余金増加高	74,029	—
当期純利益	74,029	—
利益剰余金減少高	1,346,498	4,917,308
当期純損失	—	3,783,806
配当金	1,121,107	1,120,667
連結役員与金	12,816	12,834
連結子会社増加による		
利益剰余金減少高	212,575	—
利益剰余金期末残高	15,191,079	10,273,770

連結キャッシュ・フロー計算書

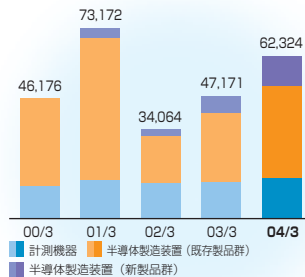
科目	単位:千円	
	第80期 (02.04.01~03.03.31)	第81期 (03.04.01~04.03.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,193,194	4,569,902
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,312,362	△ 167,668
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,248,915	1,662,726
現金及び現金同等物に係る換算差額	40,516	△ 16,680
現金及び現金同等物の増加額	170,263	6,048,279
現金及び現金同等物の期首残高	5,897,839	6,193,841
連結子会社増加に伴う期首残高増加額	125,737	—
現金及び現金同等物期末残高	6,193,841	12,242,121

グラフで見る東京精密

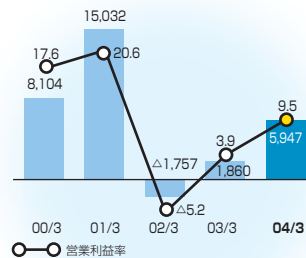
売上高
(百万円)



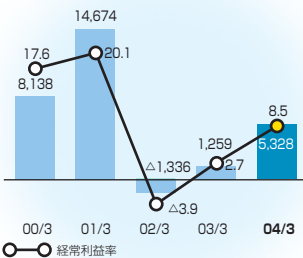
売上高内容構成
(百万円)



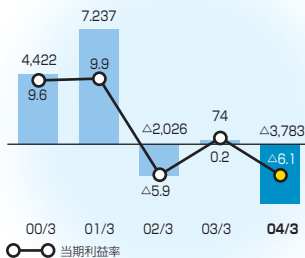
営業利益 / 営業利益率
(百万円 / %)



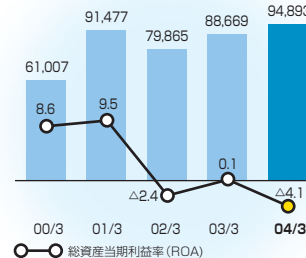
経常利益 / 経常利益率
(百万円 / %)



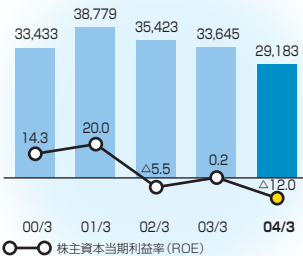
当期利益 / 当期利益率
(百万円 / %)



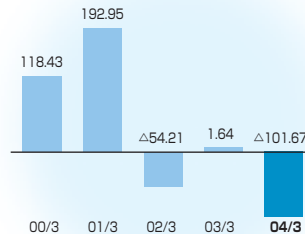
総資産 / ROA
(百万円 / %)



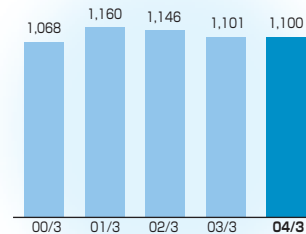
株主資本 / ROE
(百万円 / %)



一株当たり当期純利益
(円)



従業員数
(人)



財務諸表(個別)

貸借対照表(個別決算)

科目	単位:千円	
	第80期 (03.03.31)	第81期 (04.03.31)
流動資産	54,263,106	64,857,606
固定資産	27,900,775	22,527,101
有形固定資産	9,376,234	7,488,036
無形固定資産	6,863,244	3,209,474
投資その他の資産	11,661,297	11,829,590
資産合計	82,163,882	87,384,707

科目	単位:千円	
	第80期 (03.03.31)	第81期 (04.03.31)
流動負債	38,077,310	31,389,217
固定負債	10,838,651	26,791,505
負債合計	48,915,962	58,180,723
資本		
資本金	7,199,991	7,199,991
資本剰余金	11,806,740	11,806,740
利益剰余金	14,904,588	10,191,938
その他有価証券評価差額金	△ 617,077	55,053
自己株式	△ 46,323	△ 49,739
資本合計	33,247,919	29,203,984
負債及び資本合計	82,163,882	87,384,707

損益計算書(個別決算)

科目	単位:千円	
	第80期 (02.04.01~03.03.31)	第81期 (03.04.01~04.03.31)
売上高	40,996,889	55,548,522
売上原価	34,497,191	45,485,713
売上総利益	6,499,698	10,062,809
販売費及び一般管理費	6,093,401	6,447,026
営業利益	406,296	3,615,782
営業外収益	345,443	406,915
営業外費用	697,307	779,385
経常利益	54,432	3,243,312
特別利益	3,059,623	380,524
特別損失	1,299,959	9,648,173
税引前当期純利益(△純損失)	1,814,096	△ 6,024,336
法人税、住民税及び事業税	41,197	41,553
法人税等調整額	740,523	△ 2,473,907
当期純利益(△純損失)	1,032,375	△ 3,591,982
前期繰越利益	8,704,205	8,615,695
中間配当額	560,547	560,329
当期末処分利益	9,176,033	4,463,383

利益処分

科目	単位:千円	
	第80期 (03.03.31)	第81期 (04.03.31)
当期末処分利益	9,176,033	4,463,383
利益処分額	560,338	560,322
配当金	560,338	560,322
次期繰越利益	8,615,695	3,903,061

国内主要拠点



1 本社（業務会社）



2 八王子工場（半導体社）
株式会社アクレーテック・マイクロテクノロジー



3 土浦工場（計測社）

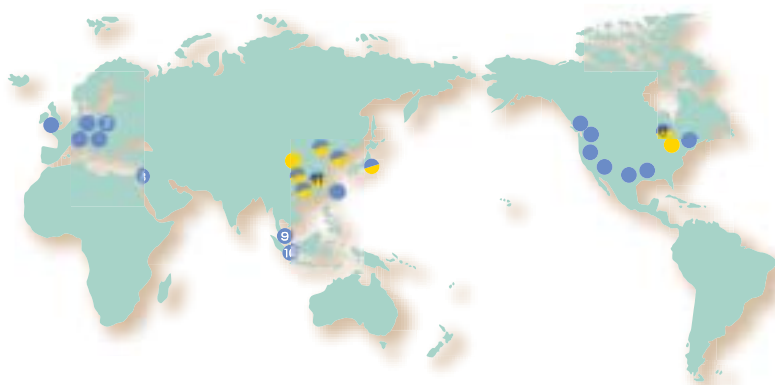


4 株式会社東精エンジニアリング
本社・工場

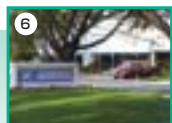


5 株式会社東精エンジニアリング
名古屋工場

海外拠点



● 半導体製造装置
● 計測機器



6 Accretech USA, Inc.



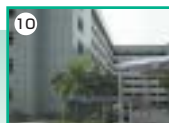
7 Tokyo Seimitsu
Europe GmbH



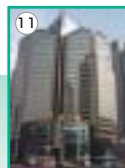
8 Accretech
(Israel) Ltd.



9 Accretech
(Malaysia) Sdn. Bhd.



10 Accretech
(Singapore) Pte. Ltd.



11 Accretech
(China) Co., Ltd.

会社概要

(平成16年3月31日現在)

商号 株式会社 東京精密
(TOKYO SEIMITSU CO., LTD.)

設立 昭和24年3月28日

資本金 7,199,991,430円

証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

役員
(平成16年6月29日現在)

代表取締役会長C.E.O.
Chairman & C.E.O. 大坪 英夫

代表取締役社長C.O.O.
半導体社担当 鈴木 貞勝

代表取締役C.O.O.
計測社担当 藤森 一雄

代表取締役C.O.O.
海外担当 長澤 英二

代表取締役C.O.O.
業務会社担当 太田 邦正

取締役 西嶋 尚生

取締役グループC.I.O. 梅中 茂

取締役 高城 英明

取締役 ウォルフガング ボナツツ

取締役 グレグ セバスチャン

監査役(常勤) 吉儀 肇

監査役 輕部 昭三郎

監査役 小倉 利之

監査役 山本 清次

従業員数 642名

主要取引銀行

みずほコーポレート銀行	大手町営業部
UFJ信託銀行	本店
三井住友銀行	本店
りそな銀行	吉祥寺支店
東京三菱銀行	新宿中央支社
常陽銀行	土浦支店
関東つくば銀行	本店

事業所

業務会社	東京都三鷹市
半導体社	東京都八王子市
計測社	茨城県土浦市

営業所

東北(宮城県仙台市)	長野(長野県岡谷市)
○山形(山形県山形市)	浜松(静岡県浜松市)
茨城(茨城県土浦市)	名古屋(愛知県三好町)
宇都宮(栃木県宇都宮市)	小牧(愛知県西春町)
埼玉(埼玉県さいたま市)	京滋(滋賀県守山市)
東京(東京都三鷹市)	◎大阪(大阪府吹田市)
○東京(東京都八王子市)	加古川(兵庫県加古川市)
西東京(東京都八王子市)	岡山(岡山県岡山市)
川崎(神奈川県川崎市)	広島(広島県広島市)
新潟(新潟県分水町)	九州(福岡県久留米市)
厚木(神奈川県厚木市)	○九州(大分県大分市)
北陸(富山県富山市)	

(注)◎:全製品取扱 ○:半導体製品取扱 無印:計測製品取扱

国内子会社

株式会社 東精エンジニアリング
株式会社 アクレーテック・マイクロテクノロジー
株式会社 トーセーシステムズ
株式会社 アクレーテック・クリエイティブ
株式会社 アクレーテック・ファイナンス
株式会社 リーブル
株式会社 東精ボックス

海外子会社

Accretech USA, Inc.
Tokyo Seimitsu Europe GmbH
Accretech (Malaysia) Sdn. Bhd.
Accretech (Israel) Ltd.
Accretech (Singapore) Pte. Ltd.
Accretech (China) Co., Ltd.
Accretech MICRO TECHNOLOGIES KOREA CO., LTD

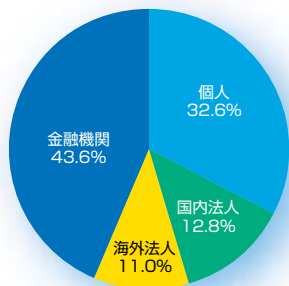
海外関連会社 三門峡中原精密有限責任公司

株式の状況

(平成16年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 110,501,100株
発行済株式の総数 37,372,993株
株主数 27,061名

所有者別状況

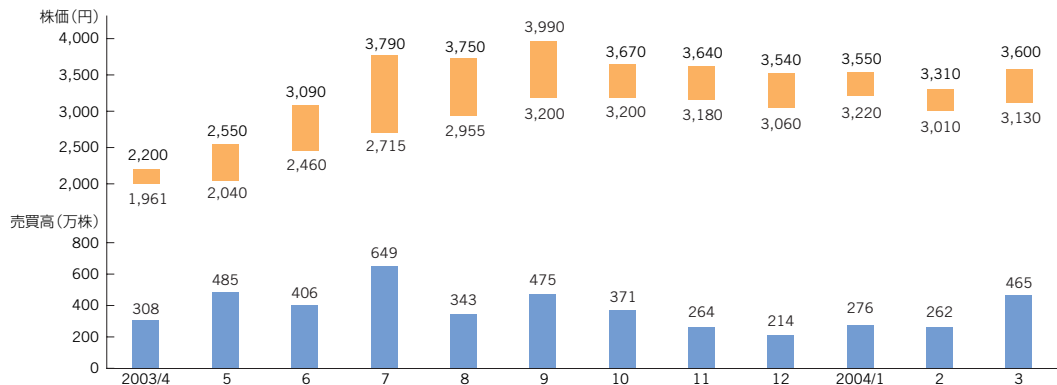


大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト		
信託銀行株式会社(信託口)	5,211	13.9
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,980	5.3
日本トラスティ・サービス		
信託銀行株式会社(信託口)	1,808	4.8
株式会社みずほコーポレート銀行	1,608	4.3
日本精工株式会社	1,113	3.0
財団法人精密測定技術振興財団	1,058	2.8
三井生命保険相互会社	900	2.4
株式会社損害保険ジャパン	600	1.6
高城ヒデ子	558	1.5
第一生命保険相互会社	542	1.5


株価の推移

(平成16年3月31日現在)



<http://www.accretech.jp>

当社に対するご理解をより深めていただければと思い、ホームページを全面的にリニューアルしました。皆様のご要望にお応えできるよう内容をより充実させて参りますので是非ご覧下さい。なお、八月中旬まで、決算説明会の様子を音声配信しております。



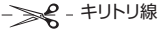
- ▶【会社案内】コーナー
当社の歴史を写真と合わせてご紹介する「ACCRETECHへのあゆみ」や「経営方針」などを掲載。
- ▶【投資家の皆様へ】コーナー
諸指標を取り揃えた「財務データ」、決算短信、有価証券報告書、アニュアルレポートなどのIR資料をご覧いただける「IRライブラリー」、皆様から頂戴するご質問とその回答を集めた「FAQ」などを掲載。
- ▶【製品紹介】コーナー
当社の全ラインナップや新製品を写真、仕様、カタログ等でご紹介。
- ▶【ニュース】コーナー
プレスリリースや当社が出展を予定している展示会の情報を掲載。
- ▶【採用情報】コーナー
社員の生の声やご応募の詳細情報などを掲載。

IRメール配信中!

この度当社では、IRメールの配信を始めました。(最新のお知らせ等をパソコンのメールアドレスにお送りします。)ご希望の方は、メールアドレス(携帯電話のメールアドレスは不可)を当社ホームページまたは、ディア・ネットサービスホームページ(<https://www.dirnet.jp/>)から、簡単にご登録(無料)いただけます。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月中 基準日毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ基準日を公告いたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5683-5111(代表)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
株式取扱手数料	名義書換 無料 新株券交付 無料
公告掲載新聞	東京都において発行される日本経済新聞 (ただし、決算公告につきましては当社のホームページに掲載しております。)



キリトリ線

郵便はがき

料金受取人払

三鷹局承認

525

1 8 1 - 8 7 9 0

差出有効期限
平成16年10月
31日まで

東京都三鷹市下連雀9-7-1

株式会社 東京精密
業務会社 総務室 宛



【お知らせ】

- 配当金の税制が変わりました。
平成15年度税制改正により、
◆平成15年4月1日から平成20年3月31日までの間に株主様が受け取る当社配当金につきましては、源泉徴収税率は10%となりました。
- ◆少額配当申告不要制度の上限規制が撤廃され、当社の年間配当受取額が10万円を超える場合も、源泉徴収のみで納税を完了できるようになりました。また、確定申告をして配当税額控除を適用の上、総合課税を選択することも可能です(当社の発行済株式総数の5%以上を所有する個人の株主様を除きます)。
- ◆源泉分離選択課税制度(35%源泉徴収)は、平成15年3月31日をもって廃止されました。
詳しくはお近くの税務署にご確認ください。

リニューアルされた
東京精密のホームページに
アクセス!!

方法1

検索エンジンを利用!
検索エンジン(Yahoo!
やGoogleなどで
東京精密または
ACCRETECHと入力

方法2

URLを直接入力!
お使いのブラウザの
アドレスバーに
<http://www.accretech.jp/>
と入力



★★★★リニューアル!★★★★



TOKYO SEIMITSU
<http://www.accretech.jp>